

会 議 録

会 議 名	第16回米原市いじめ問題対策連絡協議会
開 催 日 時	令和5年5月29日(月)午後6時～7時45分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 3A会議室
出席者および欠席者	出席者：平尾道雄市長(会長)、田原達司委員、山本貴志委員、馬淵均委員、山口昌章委員、河地誠委員、富田正孝委員、谷本政信委員、中川雅史委員、日比繁樹委員、北村和子委員、坂口哲平委員 欠席者：要石祐一委員、田辺善行委員、谷本秀明委員、糸田憲治委員 米原市：宮川総務部長、筒井人権政策課長、澤人権政策課長補佐、堀主事、北川学校教育課長、小林主幹、長澤主幹、谷川主幹、藤木少年センター所長
議 題	【報告事項】 ① 米原市いじめ対策の概要について ② 令和4年度米原市におけるいじめ事案の概要 【協議事項】 ① 令和5年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について 【意見交換】
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	【報告事項】 ① 米原市いじめ対策の概要について ② 令和4年度米原市におけるいじめ事案の概要 【協議事項】 ① 令和5年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について 承認 【意見交換】 各委員それぞれの立場から、いじめをテーマとして考えや経験について話し、意見交換を行った。
協議経過	令和5年度の事業について、計画のとおり進めていくこととなった。また、関係機関で引き続き連携をとっていじめ対策を行うことを確認した。

会議の公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開または非公開とした理由 (米原市情報公開条例第7条第5号の規定による)
会議録の開示・非開示の別	<input type="checkbox"/> 開示 <input checked="" type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：米原市情報公開条例第7条第5号の規定) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
担 当 課	総務部 人権政策課

【第 16 回米原市いじめ問題対策連絡協議会（主な意見等）】

報告事項 ①米原市いじめ対策の概要について

（事務局）資料 2～4 に基づき説明を行った。【詳細説明省略】

（会 長）事務局の説明について、委員の方から意見や質問があればいただきたい。

（委 員）昨今、学校現場で教職員の時間外勤務が多く子どもと接する時間が作れないという課題があると思う。そのような中で米原市いじめ防止・対応マニュアルのとおりに進めることができ、直接子どもの声をいつでも聴ける状況にあるのか。

（事務局）ご指摘のとおり、教員の超過勤務は問題になっている。しかし、授業や部活動、休み時間で子どもたちの様子はもちろんのこと、アンケートや、面談などを行い子どもとの関わりを意識していく。

報告事項 ②令和 4 年度米原市におけるいじめ事案の概要

《米原市情報公開条例第 7 条第 5 号の規定により非公開》

協議事項 ①令和 5 年度米原市いじめ問題対策連絡協議会の事業計画について

（事務局）資料 7 に基づき説明を行った。【詳細説明省略】

（会 長）事務局の説明について、委員の方から意見や質問があればいただきたい。

《委員から意見等なし 承認される》

意見交換

（委員） 私たちができることは、地域の支援として未然防止につなげることだと思う。人権擁護委員としては 12 月の人権週間に学校を訪問して人権教室を開催したり、SNS の問題としてスマホ携帯の人権教室を事業者と連携して開催している。それらを通じて「いじめをしない、いじめを許さない」という気持ちを高めていきたい。

また自己肯定感や自己有用感をはぐくむために、ボランティア活動を行うのも有効である。家族や先生でもない地域の人から褒められる、認められるということは、どんな子どもでも成就感や自己有用感の高まりにつながると思う。地域としてもそのような場を提供していく、そして学校としてもそのような場に子どもの背中を押していただくといった関係ができれば未然防止につながると思う。

米原市の子どもたちは素直で真面目な子どもが多いのでこのような活動を続けていけばいじめの防止につながると思う。人権擁護委員としてもいろんな側面から支援していきたいと思う。

(委員) 適切な法にのっとった取り組みをしていくことが前提としてだが、子ども自身に主体的に考えさせる取組を充実させることが、ある程度問題を重篤化させず、抑止になる。子どもたちに自治の力をつけさせるという視点が大事だと思う。

本校では平成26年に「いじめバスターズ宣言」という取組を行った。当時の卒業生に実際に来てもらい、思い出話や作った経緯を話してもらおうと考えており、このような機会を与え子どもたちに緊張感や危機感、自治の力を高められたらと思っている。

学校はいじめの問題についての対策を時間的・人的な余裕がない中で行っている。その中で米原市いじめ防止・対応マニュアルでのキーパーソンを置くのは考える必要がある。キーパーソンから最終的に校長に情報が来た時に内容がぼやけてくる可能性があるので、私としては情報を得た教職員が直接校長に伝えたほうが良いと思う。そこも検討いただきたい。

また、いじめの「軽微」な事案というくくりがとても怖く感じる。大人から見ると軽微でも、子どもから見ると重篤なこともある。一つ一つの案件を重さの振り分けをせず真摯に向き合う必要がある。そして、様々な事案を教職員に共有できるように一般化していただけると私たちとしては助かる。

(委員) 人間関係の中で、物理的・心理的に嫌な思いをしてしまうと、いじめと定義される。そのように考えると、学校で起こっているちょっとしたトラブルは全ていじめになる。人は人間関係の中で、様々なトラブルを乗り越え学ぶと思うし、相手の主張と自分の主張を比べながら、どう折り合いをつけるかがとても大事な学びだと思っている。だからこそ人と人との繋がりを大事にした取組をしてきたい。コロナが落ち着いてきた今、以前のように自主的・自治的に取組む経験をさせることがいじめの未然防止になり、その中でやはりボランティア活動は大切で、本校としても「近江友愛活動」というボランティア活動を実施する予定である。内容としては、まだ手探り状態であるが、地域の人たちにお世話になっている子どもたちが恩返しをする活動をしたいと思っている。

昔は、放課後、子どもと教員と一緒に遊んだりして子どものことを知ることができていたが、現在は時間的余裕がないので難しい。休み時間を活用した子どもとの関わりを大事にし、心に寄り添った指導ができるように教職員に伝えていきたい。

(委員) 学校と警察との連携で、生命や重大に及ぶものは通報するという規定があるが、学校の先生に犯罪行為かどうかの判断をするというのは無理なことと思う。暴行の定義にあてはまる行為かもしれない小学生の行為を、本当に犯罪行為として見ていいのか疑問を感じると思う。

また、昔と違い、警察との連携がないと逆に保護者が疑問に感じて、悪化する可能性がある。今は、学校と警察との連絡制度が確立しており、双方向の連絡ができるので、是非とも警察に気軽に相談に来てほしい。

(委員) 今年度、「人権教室」「スマホ携帯の人権教室」、そして「SOS ミニレター」の取組を行う予定である。「SOS ミニレター」は小学生全員に配布する予定で、学校や家庭で話しづらい様々な悩みを「SOS ミニレター」を一つの窓口として取り組んでいきたいと思っている。今後としては、様々な課題があるが、他府県で行っている SNS を活用した相談体制も設置できたらと考えている。

(委員) 警察が介入すると、加害生徒と被害生徒との関係がこじれて悪化するので、学校教育現場や当事者間で解決をしたいと思うが、悪質極まりない事案などがあるので、早めに警察に相談をしてほしい。また、情報が流れて捜査が進まない状況が発生するので、情報の保秘の徹底もお願いしたい。

(委員) もともと日本人は人助けという国民性を持ち合わせており、躊躇なく手を差し伸べられる環境を作る、習慣づけることが大切と思う。昔は大家族が一般的でみんなで話をしながら食事をして、時には近所の子どもを怒るのが普通であったが、今は核家族化が進んで十分な会話が少なくなった。結果、「今だけ、自分だけ、金だけ」という、自分さえよかったらよいという暮らし方に変わっている。人と人との関わりのためにもやはりボランティア活動を通して心を豊かにすることを教えていきたいと思う。社会福祉協議会は、高齢者のためという印象があると思うが、地域の福祉活動が主な活動で、ボランティア活動も活発に行っているので気軽に来てほしい。

(委員) ネット上のいじめがとても気になる。ネット上の悪口は耐えられない人も多いので注視してほしい。また、ネット上に悪口を書く人は面と向かって何も言えない人も多く感じる。また、子どもがスマホを持っている時代なので SOS を出しやすい環境という意味では、是非とも LINE や Twitter の DM を使った相談体制を米原市でも作ってほしいと親の立場としても思う。

(委員) いじめはいきなり重大なことになることは少ない。どちらかというと小さなことが段々と悪化していくことが多いと感じるため、日常の子どもの細かい人間関係を見逃してはいけないし、学校現場はもちろん、民生委員児童委員やスクールリーダーなどが協力して注視していただきたいなどと思っている。また、子どもを育てていくには社会の力は大切だが、例えば挨拶で「いつもするのに今日はしない子」「い

つも返さない子」「する気もない子」といろんな子がいることを念頭に入れて関わってほしい。

発見のきっかけが教師によるものが多くなっており、それは米原市の教職員の努力の結果だと思う。

一つ気にしていることがあり、小規模のクラスで、全員仲良しなら良いが、その中に入れない子どもがいることはとても深刻に思う。大きい学校だと、2・3人の関係が作れるが、小さいとそれができない。米原市は小規模なクラスが多いと聞くので、そういう部分にも目を向けてほしいと思う。

(会長) 良い街でよい大人に囲まれて健全に育っていく環境を作るのが私たちの、大人の使命であり、責任である。そのことを積極的に果たしていきたい。